



碧空をつく ポプラ
 白い葉 黒い葉
 吹きぬける風はみどり
 陽光いっぱい
 白い運動場
 より高く
 より速く
 より遅しく
 求めて力いっぱい
 汗流す
 矢中
 一一七八名

昭和52年7月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(ポプラのように伸びる——矢作中)

わたしは研究会などによく招かれて出席しますが、どこの研究会も自主的とか主体的ということばが目に入ります。

たしかに、その面での研究も大切でしょうが、一方、教師の「教える」という面での権威があいまいのように思われてなりません。あまりにも、自主的とか主体的とかいうことばに幻惑され、子供に中心をおきすぎて授業全体や学校全体が運営されているようです。

わたしはむしろ、「ここはこうだ」と教える教育の権威が民主主義の今こそ必要だと思えます。

すなわち、子供の自主性、自発性も考へ、教えねばならないこと、考えさせねばならぬことをきちんと押えていくべきです。今はこれが混乱しているようです。

このような教育の権威の確立は、学校の管理者にも言えます。学校は災害を予防しているところではありません。その点むしろ無防備が学校です。それでありながら、一つの問題が起きると、管理者が全責任を負うかのようなことばを吐いています。

学校のほんとうの目的はどこにあるのか、管理者はどうあるべきかを真剣に考えなければならぬと思います。

最近、子供のことは使っても乱れていきます。先生と仲間のようなことばが公然と使われています。「先生が来た」「先生がくれた」「先生がやっとな」といった具合に、民主主義になって子供が先生に敬語を使うことを忘れたようです。

わたしの子供の頃は、少なくとも敬意を表した言い方をしました。

ことばの正しい使い方は、相手に応じた使い分けができることです。勿論、使っている子供に悪気があつてのことではありません。むしろ教師がその場に応じたことば使いを教えてやらないところに問題があります。ここにも教育の権威のあいまいさが指摘されます。

かたかなの文字が多くなったことも心配です。日本本来のことばや、教育の原点はどこにあるのか、考えると寂しい限りです。

わたしはある席で「涙と教育」と題して話したことがあります。わたしは、小学校の頃の担任が歴史の時間に、皇室の衰微を涙を出し、声をふるわせて話さ

—教育随想—



教権の回復

佐藤玄彦

れたことをはっきり記憶しています。

教育とは、教師が感激するところから始まるのです。胸にくすぐるような自信をもった態度が教育の基本です。それには、うんと教材研究をしなければなりません。教材がほんとうに自分のものになって子供に語りかけることが、教育の権威にもなります。

以上、教育の権威についてわたしの雑感を述べてきましたが、岡崎の教育を眺めてみますと、確かにレベルも向上しています。しかし反面、そのレベルが揃っていない行事にしても何にしても個性がないようです。それぞれが大いに勉強し、考えを確立してください。個性もそれによって発現されるのです。

(竜城会会長)

某校某日



変革

竹川正彦

数年前

「先生、今日……。」

「なにつ、そんなやつ、クラブなんかやめてしまえ。」

ふくれつ面をして、しぶしぶ練習をはじめた生徒。

尋ねて来た卒業生、

「先生、あの時はずいぶんおこつたけど、私たちにも言い分はあつたんだよ。」

古い傷にさわられたと思いつつ、

「へえ、そんなことつてあつたかなあ。」

「やだあ、先生つたら。」

このころ

「先生、今日は歯医者にいきますから、クラブは休ませてください。」

「なんだあ、君がいないと寂しいなあ。」

「でも、明日は出ます。」

「よし、はやく治すんだぞ。」

笑顔で「はい。」

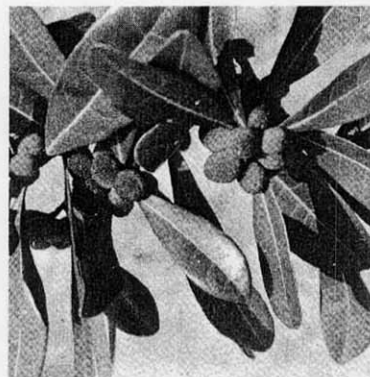
(葵中)



ヤマモモの実を食べたことがありますか。あの、ソフトな甘い味を、子どもの頃の思い出として持っている人も多いことでしょう。

ヤマモモの木は、須淵町の少年自然の家付近から、その南斜面の才栗町入の部落にかけての地域に、多くみられます。人家の近くにも、立派な木があり、実をつけるものは、むしろ山の中より多いくらいです。この中には、移植されたものもあると思いますが、まさに、この付近はヤマモモの里といった感じでした。

ヤマモモは、ヤマモモ科に属する、常緑の高木で、樹高二十〜二十五メートル、胸高囲一・五メートルほどの大木にまで成長します。この付近のものは、樹高こ



それほどではないが、幹の太さではこれに近いものがあちこちに見られます。ヤマモモの幹は、多数枝分かれして、それぞれに濃い緑の葉を密につけます。木登りしても頭が出せなくて困るほどです。よく育ったものは、ほぼ円形の美しい樹形になるので、ヤマモモを知らない人でも比較的容易に他の樹木と区別することができます。

ヤマモモという和名は、「山桃」ということで、山にある、桃のように食べられる実のなる木というのが由来です。このように、古来から親しまれたヤマモモの実ですが、どの木にでもなるわけではありません。ヤマモモは雌雄異株で、果実は雌の木にしかつかないのです。三月〜四月、地味な花をつけ、果実は六月下旬〜七月にかけて暗紅紫色に熟します。才栗町入の部落近くには、大粒で、たくさん実をつけるヤマモモの木があり、以前、秦梨町付近でガラ紡が盛んだった頃（三十年ほど前）は、部落の人が、採った実

を籠に入れて、工場まで売りに出たそうです。また、この付近には、土地の人が「水モモ」と称する、水分が多くて味のよい品種もあつたということです。

ヤマモモの実は、生食のほか、塩漬、砂糖漬、ジャム、ゼリー、ヤマモモ酒等に加工されます。しかし、実のいたみやすいという欠点があるのが残念です。少年自然の家付近では、尾根近くに実をつけているものが見つかりましたが、斜面にあるものにはほとんど実をつけたものはありませんでした。これには、なり年、間年ということだけではなく、なにか根本的な訳があるような気がします。

ヤマモモは、実だけでなく、樹皮も、モモカワとか「渋木」と言つて、黄色の染料や薬として用いられます。漢方薬としては火傷・打撲、民間薬では皮膚病・利尿等に効果があると言われています。

ヤマモモは、暖地の日あたりのよい所を好みます。深根性で、根りゆうがあるもので、乾燥地や、やせ地でもそだちます。タンニンを多く含むので、挿木はできず、実生によつて増やします。雌木の下には成熟期になると、たくさんの実が落ちてくるのに、なかなか幼木が見つからないと、よく人に言われますが、ヤマモモの稚樹の葉は成木の葉とだいぶ様相が違つており、成木の葉にない鋸歯のような切れ込みがあるなど、ずいぶん姿様が違うのには驚かされます。

(葵中 千賀敏之)

「心」を学ぶ

富田 久美子

心という字を習ったときのこと。
「心という字は心臓の形、ハートの形から……。」

「ワーキヤー、ハートだって。ワー。」
「うるさい。ほら似てるでしょ。昔の人は、いろんなことを考えるところは心臓にあると思つたの。」

「おくれてるう。そんなの脳みそがやるじゃん。」

「でも、好きになるとハート書くからやっぱりいいじゃん。」

「ワー、好きだってさ。ワー。」
「みんなだつてそのうち人を好きになるんだからワイワイ言わない。」

「ハートの字か、かつこいい。」
「簡単じゃん。四回で書けちゃうもん。」

「でもかつこうとりにくいよ。」
「先生、心臓つてどこにあるの。」

「あれ、知らないの。」
しばし脱線しまして心臓の音さがし。

「ああ、またひつかかっちゃって。さあことばづくり、がんばって。」

「お母さんが心ばいする。」「心ぞうがドキキする。」「女心のみれん」心かわりがせつなくて……。「かおはしかくても心はまるよ。」

「あなたたちテレビの見すぎでしょ。」
このごろの二年生、どうなっているの？

(大門小)

歓声ひびく須淵の森



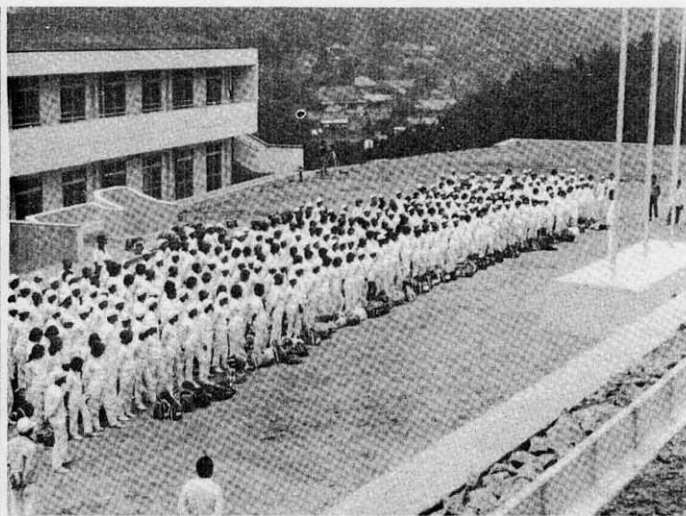
岡崎市少年自然の家誕生

岡崎市制施行60周年を記念して着工された岡崎市少年自然の家は、24万市民の期待を担って、5月10日須淵の森に開所した。

子供たちは、ここで自然の恩恵にふれ、自然を愛する生活を実践する。2泊3日の生活は短い、ここで体験する規律、協

同、友愛、奉仕の心は、生涯にわたって生き続けるに違いない。都市化の波に洗われつづけた感性は、キャンプファイヤーの炎を浴びて、たくましい情熱をよみがえらすに違いない。

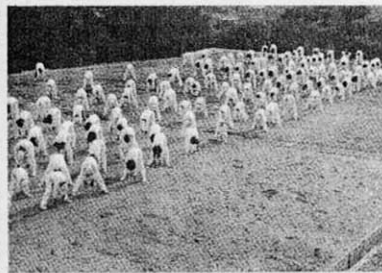
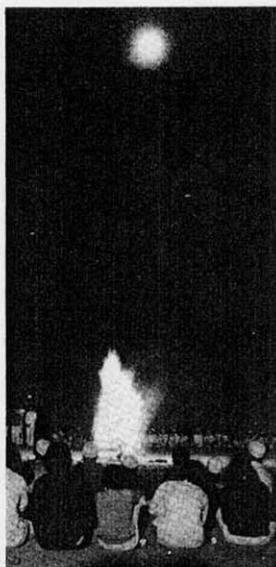
少年自然の家利用最初の甲山中学校生徒の姿を追ってみる。



生まれて初めての
落ち葉スキ

心きりりとはじめ
のつどい

感激の火は燃えて

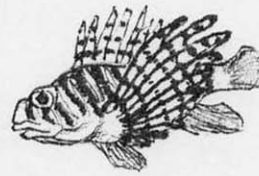


月と炎と語らいと	遊歩道散策	ロッジのベッドに話はずむ
		さわやかな朝の体操
森陰でスケッチのひととき		セルフサービスのロッジ食堂
みんな名コックのテント生活		みんなで食べるおいしさ

は子どもによい影響を与えませんかからね。矢野 そうですね。こちらでは何をやっても反響があり、いろいろな声を聞きます。学級懇談会もとても活発です。しかしそれは学級のためじゃなくて自分の子どものためということが多いような感じがします。あちらの場合ですと、やはり地域全体のことを考えた発言になりますね。

若い先生方の生き甲斐といったものは

松田 あまり強く感じられません。何かしら、迫力がないように思います。



籠橋 ただ学級経営で精一ばいで、ゆとりを持つことができないのではないのでしょうか。子どもが先生の言うことを聞かないという悩みで、フアイトを持つまでいかないような気がいたします。

職員について

籠橋 岡崎の先生方は事務処理が上手でもたまたました人が少ないですね。ただ、自分だけで処理してしまうのではなく、馴れない人に教えられるような和やかさがほしいように思います。

畑中 亭主関白先生、女房先生、独身先生の三種類の先生をつなぐのは相互信頼しかありません。お互いにカバーしあうことが大切です。言っただけで、注意した

はず、のはず論で通すことはいけません。松田 小学校も中学校スタイルになってきて、他学年との交流が少なくなってきたようです。もっと、包容力がほしいですね。口だけの指示でなく、心のふれ合いが大事ではないでしょうか。

先生方の個人研修について

矢野 先生方はとてもよく本を読んでみえます。感心しました。子どもが本を読むようにさせるには、先生がよく読まなくてはならないですね。

岡崎の教育の将来への展望について

山浦 岡崎へ帰ってきてきて、行政サイドの力で校舎がよくなったことを強く感じました。しかし、立派な教室でほんとうに魂のふれ合う教育ができていくかという疑問です。子どもに言っていることとを教師自身が実践すること、また教師自身の研修が必要だと思います。

山本 岡崎の先生方はとにかく熱心です。

時間に関係なくやっている人がとても多いですね。学校保健の取り組みに力を入れていることもよくわかります。私も、多くの先生方に負けないように、今後がんばりたいと思っています。

籠橋 今、山本先生がおっしゃったように、私も岡崎の先生はとても熱心だと思っています。今までのところでは、教科書など持ち帰ろうものならびつくりされたのですが、岡崎ではそんなことは普通なんです。とにかく先生方が研究熱心だし

礼儀正しいので、私も負けずにやりたいと思います。また、今まで勤めてきた碧南の、子どもらしい活発さと、きまりをよく守る岡崎の子どもとをミックスした子どもにしていきたいと思っています。矢野 岡崎は学ぶ場に恵まれています。山の学校は、地域の文化センターとしての役割りを果たしているが、岡崎のような都市の学校はそれを捨て去ろうとしているように感じます。この点をもう一度考えなおす必要があると思います。



畑中 ふるさとはなつかしく、おふくろの味であり、また、それが塩からすぎても悪い。ただなつかしさだけでなく、前向きでがんばってほしい。授業は熱心でも、本当に人間を育てているか、教育力はあるか、という点について今後大いに反省してまいりたいと思います。松田 三か年の僻地での体験を、今の職場や全市に生かしていくようにがんばりたいと思います。

期 日 六月三日 P三・三〇

場 所 広幡小学校 作法室

司会者 荻野富義 (広幡小学校長)

出席者 畑中貫一 (美合小教頭)

幡豆郡吉田小より

矢野達雄 (矢作西小学校務)

額田郡千万町小より

松田茂男 (矢作東小教諭)

額田郡鳥川小より

山浦昭雄 (南中校務)

北設楽郡豊根小より

籠橋薫子 (矢北小教諭)

碧南市大浜小より

山本数代 (葵中養教)

一宮市丹陽西小より



二つの顔のO君

広幡小 柴田光子

「さようなら。」
学校から解放される喜びを体いっばいに表して教室から飛び出していく子どもたち。

下校指導に出る前のこと。

「先生、O君が石を投げたもん、あたっちゃって……………」

二、三人のかん高い声。

「あつ、しまった。そういうえばきょうは声をかけるのを忘れてた……………」

授業中は一言もことばを発しませんが、放課になると、友だちをどなりちらしているO君。

長い放課になるほど、ころばされたり、かきむしられたり、

無線クラブ

甲山中 筒木幸夫

どこの学校にも、機械いじりの好きな生徒がいる。ハンダごてを使って、電線や部品をつなぎ合わせて、いろいろな作品を作って楽しんでる。

一歩進んでハム（アマチュア無線技師）の資格をとって、遠く離れた人と交信し、無線工学の腕を磨いている生徒もいる。

甲山中学校も、こうした生徒たちを集めてつくった無線クラ

つねられたり……………被害者が多くなる。少し、どもる。ため、口よりも手が先に出る、ということも承知してはいるが……………

母親と話をすると、

「うちの子は、小さいときからみんなによくいじめられては泣いてきましたので、たたかれっ放しではいけない、必ずたたき返しておいで……………としつけてきました。」

教育日々



クラブ活動の時間には、ハムの教科書や問題集にとりくみ、有資格者の上級生は講師となり、無線工学と電波法規の解説をしたり、さらに上級の免許をとるためにモールス符号を覚えたり、電鍵を使ってモールスの送受信の練習をしたりしている。

また、製作活動では、トランジスタを使ったラジオや、モールス発振器、インターホンなど全員で作ったりしている。個々の研究製作として、アンテナ、うそ発見機、テップメーター、エレキ（自動電鍵）安定化電源などを作っている。

これらの製作物は、毎年の文化祭に展示したり、公開実験をしたりしている。異色な活動としては、有視界距離における無線通信として、全員で手旗の練習をしていることだ。学校での避難訓練に利用してもらったり、山の学習でテントとロッジ間の連絡に使ったりして活躍した。

ということばを繰り返す。学校では、それほどいじめられていたというようには見られないと話しても、受け入れてもらえない。

体育の時間に取り上げ、配り忘れた名札を、下校の用意をするほんのわずかな間に配っておいてくれたO君。

またある日、机の上の紙が風で舞いかけた。わたし之急いでそれをおさえようとした瞬間、窓ガラスをしめてくれたのもO君だった。

この時とはかりにほめた。そして、

て、学級通信にも取り上げた。照れくさそうに、そして、うれしそうに笑っている目もとと、口もとがとてもかわいいなあと思った。しかし、次の放課にはまた……………

このごろはなるべく「仲よく遊んでおいでね。」と、声をかけるようにしている。「うん。」

と、うなずき、わずかに口をほころばせて運動場へ。少しでも争いをするのがなくなるように祈りながら、後ろ姿を見送る毎日である。

生徒の姿は、十年來の友と話し合っているように、ほんとうに生き生きとしている。





新学制施行三十周年記念

第五回 教育文化賞受賞候補者の受付開始

新学制三十周年の記念すべき年を迎え、第五回目の岡崎竜城ライオンズクラブ基金による「教育文化賞」受賞候補者の申請および推薦受付が始まる。

「教育文化賞」は、本市の教育文化の振興に資するため制定されたもので、この趣旨にもとずき次の要項で募集するので皆さんの賛同・協力を期待します。

▼趣旨
岡崎の教育文化の振興に寄与する個人または団体のすぐれた業績や現に続けている研究に「教育文化賞」を贈り、顕彰・助成を行う。

▼選考方法
本人・団体からの申請または関係機関の推薦を受け、選考委員が選定する。

【寄贈刊行物・資料等】
◇藤川小の教師

岡崎市立藤川小学校編
市教委・全国学校図書館協会
研究校の現職教育実践記録。B
5判、四八頁
◇古典文学に見られる数詞の素
顔（古典編）

岡崎市立六ツ美中部小学校長
鈴木英二著

日本の四十数点に及ぶ古典に見られる数詞や数量表現のそれを考察し、数詞の素顔には誇張性、呪縛性、弄文性、リズム性、比喩性などがあることを紹介される。A5判、四七三頁

▽表彰

受賞者発表は十一月上旬、授賞式は十一月中旬の予定。賞状のほか教育文化奨励賞を贈る。
①▽申請・推薦要項

- ①、所定の用紙に所要事項および業績、内容の概略を記入し、必要な資料があれば三点以内に添付する。
- ②、用紙は小・中学校、または市教委。
- ③、締切日、九月十七日（土）。
- ④、連絡および送り先。
岡崎市教育委員会学校教育係、
教育文化賞係（電二三一六四三九）

■岡崎地区交通少年団

指導育成協議会設立される
異常な交通事故急増という背景の中で、昭和四十八年以来交

通少年団が各地に結成され、現在五団体・団員数七〇〇人の組織が成長した。
こうした現状を認識して、組織的に指導育成するため、結成大会が来る六月二十五日（土）午後二時、岡崎警察署講堂で開催される。
この会に所属する団体は次の五団体である。
羽根学区交通少年団、男川学区交通少年団、根石学区交通少年団、岩津学区交通少年団、ホイイスカウト交通安全班育成協議会

■県民大学（土）PM1:30

市商工会議所ホールで
6/18今日出海―東西談議、
6/25芦田淳―豊かな生活、
7/2上坂冬子―男の立場、女の立場、
7/9高坂正堯―狭くなる世界と日本、
7/16今西錦司―進化論の立場から

第21回岡崎市中学校総合体育大会の記録

(昭和52年6月5日)

種目	会場	成績			
		優勝	2位	3位	3位
陸上競技	男 公園グランド	矢作	甲山	岩津	岩津
"	女 "	甲山	六ツ美	矢作	岩津
バスケットボール	男 城北中	葵	美川	城北	矢作
"	女 矢作中	葵	六ツ美	矢作	甲山
バレーボール	男 電海中	甲山	矢作	南	電海
"	女 "	葵	矢作	南	電海
軟式テニス	男 公園コート	甲山	城北	東海	南
"	女 "	南	矢作	美川	河合
卓球	男 市体育館	東海	矢作	電海	南
"	女 "	南	東海	南	電海
体操競技	男 電海中	甲山	葵	電海	電海
"	女 "	南	葵	矢作	岩津
ハンドボール	男 葵中	美川	六ツ美	城北	葵
"	女 "	六ツ美	美川	葵	岩津
剣道	男 南中	城北	矢作	福岡	岩津
"	女 "	美川	電海	附属	葵
柔道	男 市体育館	美川	電海	電海	電海
ソフトボール	女 甲山中	甲山	矢作	城北	岩津
軟式野球	男 城北中・南中	葵	福岡	矢作	附属

●個人成績（陸上競技）

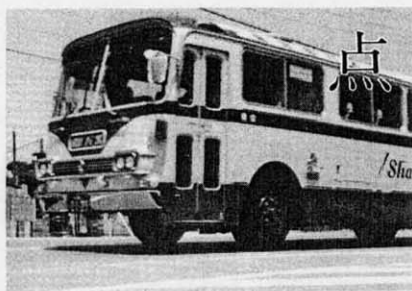
○印新記録

男子	記録	氏名	校名	女子	記録	氏名	校名
100M	11'6	荻野 竜也	葵	100M	13'4	山本 美代	甲山
1年100M	○ 12'7	青木 幹典	葵	1年100M	14'3	柳原 伸子	甲山
200M	○ 24'2	麻場 公植	城北	200M	28'7	竹内 品子	葵
800M	2'13'4	三浦 浩司	城北	800M	2'35'2	斉田 良美	矢作
3000M	10'50'8	兼子 薫	甲山	80MH	13'3	神谷みゆき	矢作
100MH	○ 14'5	石川 誠司	甲山				
800MR	○ 1'41'8	甲	山	400MR	55'3	六 ツ	美
低400MR	51'5	矢	作	低400MR	58'2	矢	作
走幅跳	5m94	岡田 一宏	岩津	走幅跳	4m77	山本 美代	甲山
走高跳	1m65	前河 浩之	矢作	走高跳	1m35	加藤 優子	葵
砲丸投	○ 14m04	大崎 浩幸 宮島 幸男	岩津 香山	砲丸投	9m63	成田真由美	南

●体操競技

男子	氏名	校名	女子	氏名	校名
器械総合	甲	山	器械総合	南	
団体徒手	電	海	団体徒手	葵	
個人総合	鬼頭 一久	甲山	個人総合	萩原 由香里	南
床	鬼頭 一久	甲山	床	岡田 不穂子	南
鉄棒	鬼頭 一久	甲山	平均台	萩原 由香里	南
跳箱	奇藤 友成	電海	跳箱	萩原 由香里	南

芦池橋



所在地 岡崎市明大寺町野畔

チンチン電車と呼ばれ、親しまれた市内電車。殿橋から愛電前、三島学校下、芦池橋と電停が続き、新田橋に至ると急に家並がとぎれて視野が広がった。現在の竜海中学校のある丘と前の三島小学校、後の教育大学の丘の山あいから湧出する水と雨水とを一時的に溜める役目を果たしたのが芦池であった。

昔その「芦池」のあったところで、材木屋を営むN氏の所有池であった。貯水池として永く利用されていたが、戦後、徐々に埋め立てられ、三十年頃には完全に埋めつくされた。池がなくなくなった当時、周辺の家々は大雨の度に雨水が流れ込み、困ったという。その芦池から流れ出て、二四八号線を横切る小川にかけられていた橋が芦池橋である。

カット

城北中

高橋美代子

この本を

- | | | |
|---------------------|------------|---------|
| ○親と子 | 朝日新聞社文芸部 | |
| 朝日新聞社 | | ¥ 800 |
| ○私の教育論 | 松田 道雄 | |
| 筑摩書房 | | ¥ 1,200 |
| ○冬青庵楽事 | 小林 勇 | |
| 新潮社 | | ¥ 1,900 |
| ○日本人の死生観 | | |
| 加藤周一・M.ライシュ・R.J.リフト | | |
| 岩波書店 | | ¥ 280 |
| ○日本人 | グレゴリー・クラーク | |
| サイマル出版会 | | ¥ 1,200 |
| ○半生の記 | 松本 清張 | |
| 河出書房新社 | | ¥ 850 |
| ○両前雨後 | 中野 好夫 | |
| 毎日新聞社 | | ¥ 1,500 |
| ○ある聖医伝 | 福林 正之 | |
| 筑摩書房 | | ¥ 980 |
| ○低空飛行 | 丸谷 才一 | |
| 新潮社 | | ¥ 850 |
| ○渾美の四季 | 杉浦 民平 | |
| 家の光協会 | | ¥ 1,200 |

「岡崎の教育」も本号で五十号。「あの記事はよかったぞ。」この一言で編集の苦勞を忘れる。(やっぱり足で書いたものがいい)机上へ配られても一瞥されただけで捨てられると、胸中、まことに複雑な思いがかけめぐる。

七輪を出したところ、末っ子から「これ何?」ときた。知ってるもんだと思っただけ。こちらがびっくりした。話して聞かせたら分と不思議そうな顔をした。ガスばかりになって使用がなければ無理からぬことだ。要求に応じて母親が教えた。末っ子ははじめて七輪の価値によるこんだ。——よかったなあ。



あつという間に一学期が済む。あつという間に一日が済む。あつという間に三代が済む。目まぐるしい毎日。忙しい時の方がいい仕事ができる、と負け惜しみを言うが心(↑)は失(亡)いたくないものだ。

「スミマセン」の一言。「アリガトウ」の一言。人間関係に潤いをあたえるこのような言葉。小学生は素直に使うのに、おとなになるにつれてこんなことを言うとは損だといわんばかりにアスンとしている。言葉の潤滑油を大切にしたいものだ。こんなえらそうなこと書いてスミマセン。